

英語リスニング・試行テストの実施経過と 受聴機器選定のためのアンケート調査結果

内田照久ⁱ 大津起夫ⁱⁱ 石塚智一ⁱⁱ

平成18年度から、大学入試センター試験に新たに英語リスニングテストが導入された。そこでは、受験生一人一人にICプレーヤーを配付し、受験生がそれを操作して個別に音声聞きながら解答する形式で試験が行われた。センター試験のように、全国で一斉に実施され、受験生が50万人を超える大規模なテストにおいて、このような個別音源を試験で用いた例は世界的にもほとんど類を見ない。

このリスニングテストの導入に向けては、それに先立つ平成16年9月26日、全国500を越える試験場で、高校2年生35,000名余を対象として、その予行実施となるリスニング・試行テストが行われている。この試行テストでは、受験生にICプレーヤーを配付し、受験生は「イヤホン」、もしくは「ヘッドホン」から提示される音声を聞いて問題を解いていった。さらに、この試行テストでは、ICプレーヤーと共に用いる受聴機器の選定のための情報収集も同時に行われた。

ここで言う受聴機器の種類、形状は、大きく2種類に大別される。一つはステレオ型のイヤホンで耳の中に装着するものである。もう一つは、ヘッドホン型のもので、頭頂部にアーム部を乗せると両耳位置にレシーバーがくるものである。他にも様々な機器が開発されているが、これまでのところ、コストも含め、現実的な供給状況も鑑みると、このステレオ型イヤホンか、開放型のヘッドホンかの二者択一の問題に帰着する。

それ以前の検討の中で、各受聴機器にはそれぞれ特有の問題が指摘されていた。例えばステレオ型イヤホンでは、取り回しが容易で可搬性が高いという

それ以前の検討の中で、各受聴機器にはそれぞれ特有の問題が指摘されていた。例えばステレオ型イヤホンでは、取り回しが容易で可搬性が高いという

i 研究開発部試験環境研究部門 (現 試験評価解析研究部門)

ii 研究開発部試験作成支援研究部門 (現 試験評価解析研究部門)

※平成18年4月に研究開発部を改組し、試験基盤設計研究部門、試験評価解析研究部門、試験問題研究部門(客員研究部門)の3部門を設置した。

メリットがあるものの、ごく稀に耳介の形状によって、標準的なサイズの物を装着できない者が発生するという事態が生じていた。一方、ヘッドホンでは、センター試験で用いられる可能性のある品質のものでは、音漏れが著しく、遮音性も十分ではないため、受験者から苦情が寄せられるといったことがあった。このように、いずれの受聴機器にも一長一短があるため、受聴機器の選定に当たっては、大規模な実験を行うことで相互比較を行う必要性が指摘されていた。

そこで試行テストでは、実際に両者の比較を行うため、受験者を大きく二等分し、イヤホンとヘッドホンをそれぞれに割り当てて試験を実施した。そして、試験後には受聴機器に関わるアンケート調査も実施した。

その試験での成績とアンケート調査の結果は次のとおりであった。まず、受聴機器の種別による試験の成績への系統的な影響は見られなかった。そして、受聴機器としてはステレオ型イヤ

ホンが推奨された。理由としては、(1)遮音性・静粛性の面で開放型ヘッドホンよりも優位、(2)装着感・安定感の評価が高い、(3)搬送・保管・試験室での配付時にサイズ面で有利、の3点があげられた。一方、検討課題としては、(1)個人的な耳介形状に起因する装着困難者への対応、(2)ICプレーヤーの初期設定をステレオ型イヤホンに最適化することの必要性、の2点が指摘された。

最終的にはこの調査結果に加えて、試行テストの実施運営に当たった各大学の担当部局からの膨大な意見調書も資料として総合的な検討が行われた。その結果、平成18年度のセンター試験のリスニングテストでは、原則的にステレオ型イヤホンが用いられることとなった。なお、特にリスニングテストの導入初期にあっては、実施現場からフィードバックされる情報に細心の注意を払い、今後の改善に資する継続的な検討の必要性が指摘された。